

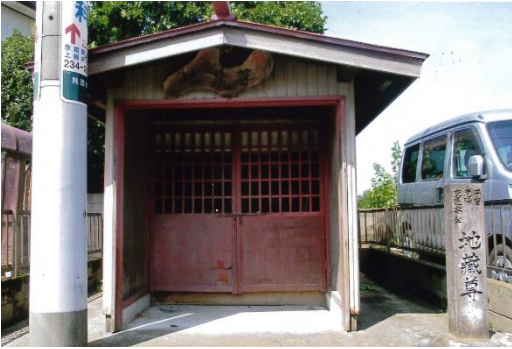
芳賀の史跡めぐり

-10-

厄除け地藏尊

鳥取町公民館の西側（字内出）の県道沿いに1.5坪程（約5平方尺）の御堂があります。格子造りの観音（かんのん）開きの扉には錠（じょう）がかかっていて、地域の人々に大切に守られていることが伺われます。

御堂の中には厄除け地藏尊が祀られています。この地藏尊は台座の安山岩の上に、同質の石で高さ97センチ、最大幅46センチ



御堂

ンチの舟形光背の中に、半肉彫りのお姿が浮いて蓮台に立っています。光背の右に建立月日、左に建立した人の銘が刻まれているが、かなり摩耗してほほとんど読み取りにくい状態です。拓本にしてみると、延亨四年（1747）の丁卯（ひのとう）九月と刻まれています。約270年も前の作品であることがわかります。

地藏尊は釈迦（しゃか）入滅後、弥勒（みろく）菩薩が出現するまでの無仏時代、六道と輪廻（りんね）に苦しむ衆生（しゅじょう）を救う役を、釈迦から任された仏様です。

この地藏尊は、鳥取町202番地にあったものが、裏の竹藪に移され、大正八年にその竹藪の東の墓地に移されました。更には、昭和三十八年、大沢勝



地藏尊

次郎氏の家と墓地の間の道路を広げる都合で、現在地（鳥取町200番地）に移されたのです。

御堂の造られたいわれは、大正五年、当時小学生だった大沢勝次郎氏と、大沢益太郎氏が、露天の地藏尊にあげた線香が、雨で消えてしまうのを見て、小遣い銭で板を買って、屋根を造ったのがはじまりです。

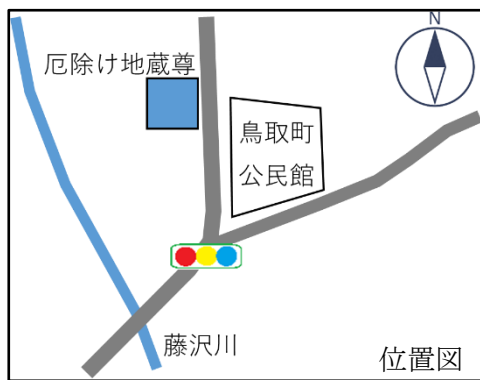
これがきっかけで、大沢家を中心に、近所の皆さんが立派な御堂に造りかえて祀ることになりました。毎年、四月と十月の二

十二日がお祭りで、戦前は、大変賑わったそうです。今でも、お祭りは規模を小さくして受け継がれています。

また、厄除け祈願をされた方々が、祈願成就の日に前掛けや小さな石の地藏尊を造り、お礼参りをしていきます。地藏尊の後には、沢山の地藏尊が納められております。

生涯学習奨励員

加藤 正利



位置図

9月の主な行事予定

9月1日（日）第24回芳賀地区ふれあい寄席（芳賀公民館ホール）
9月8日（日）第21回芳賀体協グラウンドゴルフ大会（芳賀公園）



春夏秋冬

長梅雨と野菜作り

小坂子町に住み始めて27年目。すぐに近くの畑を借りて野菜作りを開始。今は徒歩1分の近場で200坪を借りて、年間では40種類以上の野菜を作っている。時々は出来が悪いことはあるが、最近は失敗も少なくなった。

ところが今年はいくつかの野菜がうまくいかなかった。メロン・ウリは根腐れで木が枯れた。ナスやキュウリもなりが悪いし、木が早くに弱った。モロヘイヤに至っては花芽がついて、硬くてほとんど食べられなかったなど。7月末までの長雨と低温が原因である。普段は夏野菜を徐々に片付けて、9月になったら秋野菜を手当てするが、今年畑の空気が早いために8月から秋野菜の種蒔き、苗の準備をするようだ。やはり自然には勝てない。

小坂子町生涯学習奨励員

小見 耕一